

FIDIC ニュース 2008 年 7 月号抄訳

訳責：国際活動委員会 IFI 分科会

脚注：この抄訳は IFI 分科会の若手サブメンバーの翻訳を分科会で監修したものです。

A. 活動 (Activities)

A.1 一流の解説者と業界の重鎮が講演 (Leading commentators and industry authorities to speak)

FIDIC2008 ケベック大会が 2008 年 9 月 7～10 日に開催される。初日には、ニュース雑誌で“予言者(あるいは「反グローバリズムの開祖」)”と評されたカナダの著名な John Ralston Saul が大会の方向性を「社会に奉仕する強力な産業」と設定する基調講演を行う。本講演において彼は、グローバル化社会におけるコンサルティングエンジニアの役割を分析し、現代の理論的枠組に挑戦することとなる。初日のテーマとなる「エンジニアリングコンサルタント業界の外側か



らの視点」は、非常に興味深い。ケベックの前州知事である Pierre-Marc Johnson (写真参照) もオープニングの本会議でこのテーマを取り上げる。そこで彼は、今日の世界経済の基幹である重要なインフラ供給において、その品質が保たれない場合に何が起き得るかについての権威ある講演を行う。午後のセミナーにおいては、コンサルティングエンジニア業界が社会に与える影響と、業界の役割や、環境管理、持続可能性、倫理や公正性に対する責任を検討して明らかとする。

2 日目の全体会議では、主だった国際的な発注者の上級代表者が、どのように質の高いコンサルティングサービスが提供されるかについて、それぞれ異なる視点から意見を発表する。発表者は Hydro Quebec 社社長の Thierry Vandal、Rio Tinto Alcan 社社長の Jean Simmon、シンガポール公共事業庁の Young Joo Chye、そしてヨルダン、アンマン市長の Omar Maani である。さらに、コミュニケーション力の向上、市場の持続可能性、リスクと報酬のバランスという主要な課題に関するセミナーが後に続く。

3 日目の全体会議では、エンジニアリングコンサルタント業界がより強力な組織を形成し、リーダーシップを発揮し続けるためには何をすべきかについて、業界代表者が発表を行う。発表者は Golder Associates 社の Rick Firlotte、Scott Wilson 社の Martin Neilson、Genivar 社の Pierre Shoiry、AECOM 社の John Dionisio である。それに続くセミナーでも、エンジニアリングコンサルタント業界の戦略的重要性、企業の成長施策、ビジネス戦略など重要な課題を扱う。これら一連の会議の特徴は、最後の全体会議において社会の要請に応えるために明確な目標や戦略を設定することである。これによってコンサルティングエンジニアリングが将来にわたり革新を推進するとともに、サービスの質と持続可能性を最適化することにより、強く、また持続可能な業界に確実に発展することを意図している。

同伴者向けの様々なプログラムに加えて、若手専門職には大会前日日曜の親睦会、月曜のオープンフォーラム、火曜の将来のリーダーのためのワークショップや技術見学会が計画されており、これらを通して交流や情報交換ができる。コンサルティングエンジニア業界の情報交換イベントの詳細やオンライン登録は会議ウェブサイトを参照のこと (www.FIDIC2008.org)。

[AJCE 事務局より] FIDIC2008 ケベック大会には日本から約 30 名が参加しました。10 月 3 日に『FIDIC 大会報告会』を開催し、報告内容は AJCE 会報・HP に掲載する予定です。『FIDIC 大会報告会』についてのお問い合わせ

せは AJCE 事務局 (TEL:03-3839-8471) まで。

B. 行事(Events)

B.1 コンサルティング エンジニア アフリカ 2008 がアフリカでの CE 活動を紹介 (Consulting Engineers Africa 2008 showcased the continent)

FIDIC アフリカ地域協会連合 (GAMA) のエネルギー・環境会議にアフリカのフランス語圏・英語圏の 15 の国々からコンサルタント技術者が参加した。この会議はコンサルティングエンジニアアフリカ 2008 (6 月 23 日～25 日、チュニス) の一部として ANBEIC - チュニジアにより開催されたものである。会議のハイライトは FIDIC 会長 John Boyd の「都市計画



とコンサルタント技術者が当局に対して投資および持続可能な解決方法の選択肢について助言する上で果たす重要な役割」についての講演であった (<http://regions.FIDIC.ch/gama/pages/default.aspx> 参照)。特別に開催されたアフリカ開発銀行のワークショップでは、コンサルティングエンジニア業界に対して、アフリカで必要とされるインフラ整備の長期持続可能な解決への助力が要請された。同銀行は地域のコンサルティング能力開発が依然として高い優先度であることを確認した (FIDIC アフリカ地域協会連合は最近提出した「指導者を養成する能力開発訓練プログラム」の立上げを支援するための提案書への追加提案を提出した)。2 日目の ANBEIC エネルギー・環境ワークショップの見所は、アフリカ特有の専門的技術と知識、特にエネルギー分野における新技術や革新についての話題であった。例えば、チュニジア当局はエネルギー、リサイクル可能な資源、水、廃水の有効利用に係る厳しいガイドラインとルール構築について述べた。これら一連のイベントの締めくくりとして FIDIC クレーム・紛争解決セミナーが開かれた。このセミナーは Tayeb Naidji (ストラスブールの Les Contracteurs 社、写真中央)、Sebastian Hoek (ベルリンの Kanzlei Dr. Hoek Stieglmeier 社、写真右)、そして FIDIC 会長 John Boyd (写真左) によって行われた。

B.2 FIDIC は国際訓練プログラムを拡大 (FIDIC International Training Programme expands)

50 以上の契約約款訓練イベントが 2008 年に向けて計画された。これらは FIDIC の包括的かつ体系化された英語による国際訓練プログラムの一部である。これらのイベントは FIDIC 契約約款と **FIDIC 実務ガイド** **訓練用手引き** に関するモジュールの範囲をカバーする様々なフォーマットを含んだいくつもの基本フォーマットで体系化されている。



- 集中コース：体系化された手順でモジュールをカバーする。参加者 30 人未満を対象とし、数日間にわたり行われる。
- 一般コース：体系化された手順でモジュールをカバーする。50 人～70 人を対象とし、2 日間で実施される。ワークショップ：30 人～50 人が参加し、特定の話題について議論を深めるセッションが含まれる。
- セミナー：数名の発表者それぞれが話題を提供するもので、相互のやり取りは比較的少ない。
- コンファレンス：専門家による最新の知見に対する高度なレベルでの概要説明で構成される。

プログラムを体系化する目的は、参加者に幅広い選択肢を与えることで、各イベントが確実に同レベルを維持し、かつ同じ領域をカバーすることである。参加者はまた、自身の理解の進捗に応じて導入セ

ミナーからコースを経て、より専門的なワークショップに進むことができる。さらに、参加者は「FIDIC 契約約款年次ユーザーズ会議」と「FIDIC-ICC 契約約款・紛争解決会議」で最新の発展について知る機会がある。

最近行われた契約約款に係るイベントは次の通りである。

- ◆ カタールでの集中契約約款コース (FIDIC 契約約款、クレームと紛争解決)
- ◆ ドバイでの集中契約約款コース (紛争 裁決委員会)
- ◆ ブラジルでの契約約款ワークショップ
- ◆ スウェーデンとブラジルでの契約約款セミナー
- ◆ アメリカでの訓練コンファレンス

ビジネス実務のための「プロジェクト持続可能性管理訓練セミナー」は、ヨルダン、南アフリカ、フィリピンとノルウェー、おそらく英国でも計画、或いは計画される予定である。このセミナーは別の実務ガイドモジュールに基づくコースに則ったものである。これらのイベントは通常、会員協会や地方組織または国際訓練提供会社をパートナーとして計画される。(詳細は FIDIC.org/event 参照)

B.3 行事予定 (Forthcoming meetings and events)

- 2008 年 8 月 9~10 日 : FIDIC - ヨルダン コンサルタント契約研修コース、アンマン
- 2008 年 8 月 12~13 日 : FIDIC - ヨルダン 人材/組織研修コース、アンマン
- 2008 年 8 月 26~27 日 : FIDIC - CECOPHIL 契約約款セミナー、マニラ
- 2008 年 9 月 5~6 日 : IBA 建設プロジェクト会議、ブリュッセル
- 2008 年 9 月 7~10 日 : FIDIC 2008 ケベック大会
- 2008 年 9 月 11~12 日 : FIDIC - コーナーストーン社 契約約款ワークショップ、アムステルダム
- 2008 年 9 月 26~27 日 : FIDIC - VBI 社 契約約款セミナー、ベルリン
- 2008 年 9 月 29 日 : FIDIC - セルビア セミナー、ザグレブ
- 2008 年 10 月 6~7 日 : FIDIC - ECV 社 契約約款コース、ブリュッセル
- 2008 年 10 月 9~10 日 : FIDIC - コーナーストーン社 契約約款ワークショップ、サンパウロ
- 2008 年 10 月 15~16 日 : FIDIC - ECV 社 契約約款コース、ドバイ
- 2008 年 10 月 29~30 日 : FIDIC - コーナーストーン社 クレーム管理ワークショップ、アブダビ
- 2008 年 11 月 4~5 日 : FIDIC - ECV 社 クレーム・紛争解決コース、ブリュッセル
- 2008 年 12 月 1~2 日 : FIDIC 契約約款ユーザーズ会議、ロンドン

C. 契約約款(Contracts)

C.1 インドネシアが FIDIC に関連する活動を推進 (Indonesia promotes FIDIC-related activities)

インドネシアの公共事業省大臣 Djoko Kirmanto 博士は、2008 年 6 月 12 日、インドネシアのジャカルタで FIDIC 契約約款訓練ワークショップを開催した。これは同時に、FIDIC 建設契約約款国際融資機関版のインドネシア語版を出版する機会ともなった。写真には、大臣が国家公共建設開発審議会の副会長である Sarwono Hardjomuljadi と一緒に報道陣にこれを掲げて見せる姿が写されている。



Hardjomuljadi は、INKINDO インドネシアとその役員会を代表し、本セミナーを組織した人物である。大臣は FIDIC の標準を順守する事により、海外も含めた全ての建設業者の入札参加を促せるので、イ

インドネシア政府が行う大規模建設計画の入札には FIDIC 契約条件書の利用を近々義務化する事を示唆した。本ワークショップの主要な発表者である元 FIDIC 会長の Richard Kell と FIDIC 事務局長の Peter Boswell は、この機会に国際的な訓練事業を促進し、トレーナーの育成事業を飛躍させる計画について協議した。これは特に、協調版に基づいて行う開発機関の援助による主要道路建設事業の管理技術者を対象とする。

[AJCE 事務局より] AJCE は、2007 年 7 月に『FIDIC 契約約款国際融資機関版の解説セミナー』を開催しました。
http://www.ajce.or.jp/action/06seminer/070813%20mdb/seminer_070713.htm セミナー資料を販売しております。お問い合わせは AJCE 事務局 (TEL: 03-3839-8471) まで。

C.2 国際労働機関の公共事業労働条項改訂を提唱 (Revision of ILO public contracts labour clauses convention recommended)

1949 年、国際労働機関 (ILO) は公的機関が締結する契約の労働条項に関する協定を採択した。それによって、各公的機関は契約条件、労働条項、強制措置を伴う「社会的に受け入れられる」労働基準を制定することが求められる。採択に付随した提案では、労働条項に規定されるべき労働条件が明記されると共に、民間企業が運営することを認可された公共事業においては公的機関が締結する契約と類似の労働条項を採用することを勧めている。同時に、公的機関の契約における労働条項には、国際的で拘束力があり、管理された条文だけが残される。2004 年、ILO は 2008 年 5 月末に開催する ILO 会議での議論のために、各国に国内法と実態調査の方法についての報告を依頼した。FIDIC 専務理事 Enrico Vink が参加したワークショップでこの調査報告書が公表された。その中で、労働条項に関する協定への関心の欠如は、価格競争を促進させ、「現地で最適な労働条件」を入札者が適用することを困難とするような公共調達政策によってもたらされていると報告している。一方、公的・私的契約を問わず、労働基準を適用する方向での「持続可能な調達」への大きな動きが進んでいる。専門家は、a) 強制力と法律の欠如と、b) 官民協調の役割や新たな主体である国際的な建設契約約款の発展を牽引している FIDIC のような企業団体の役割を認める一部改正を提言した。例えば、政府が基準を提起した場合には、FIDIC 国際融資機関版建設契約約款の労働条項は修正が必要となる可能性がある。さらには、各国ごとの公共部門契約のための建設契約約款特別条項も更新が必要になる可能性がある。調達に当たって、そのプロジェクトの目標と管理指標を設定するために FIDIC のプロジェクト持続可能性管理手法を利用する者は、新たな労働基準を認識する必要がある。



D. 協会活動 (Representation)

D.1 トリニダード・トバゴが FIDIC 会員、訓練プログラム及び契約約款の導入を促進 (Trinidad and Tobago to review FIDIC membership, training and contracts)

トリニダード・トバゴの 15 ヵ年ビジョン 2020 国家戦略計画の素案は、「エネルギー部門の収益による繁栄の波」により「2020 年にまでに先進国の状況」に到達させる道筋を描いている。2007~2010 年の政府プロジェクトへの投資計画初期案では年間約 45 億米ドル、うち 27% をインフラ整備と環境に割り当てている。急激な支出増と、トリニダード・トバゴのエンジニアリングと建設業界は比較的小規模であるため、共同諮問評議会 (the Joint Consultative Council、JCC) が、さらなる透明性と監視を要請している。これは、建設業界の業績向上、調達法の制度化、および建設費 3 億 US ドルのスペイン

港ウォーターフロント再開発（写真参照）のようなプロジェクトから現地企業を締め出すと報道された政府間取り決めの緩和などを支援するものである。



27 年という長い歴史を持つ JCC は、エンジニア、建築家、プランナー、施工業者、および測量士の協会によって構成されている。JCC は FIDIC 建設契約約款の採用を政府へ成功裏に働きかけた。要請への対応として、FIDIC - ECV 社による 2 日間の契約約款研修コースが非常に成功裏に開催された。JCC 会長である Winston Riley の招待により、FIDIC 事務局長 Peter Boswell は 2008 年 6 月下旬に訪問し、契約とビジネス実務に関するすべての範囲へ研修コースを拡張する計画を再確認した。JCC 役員会もまた、コンサルティングエンジニアのビジネス上の関心事を代表する協会をその支援下で設立する可能性を検討することに合意した。現在、トリニダード・トバゴコンサルティング・エンジニア協会（ACETT）は、そのエンジニア部会や政府からの要請により、主として管理業務を担当している。民間コンサルティング業界の個人および企業の有志からなる登録者によって構成されており、これらの登録者は学術団体の一つトリニダード・トバゴの専門技術者協会（APETT）の一員でもある。最後に、FIDIC 契約約款の中心的役割に鑑み、JCC は建設契約約款の一般条項に対して地域特性を反映させるために用いる技術委員会の特記仕様書を見直すことに合意した。

D.2 ヨーロッパ作業部会報告書に対して FIDIC が発言（FIDIC acts on Europe task force report）

FIDIC 会長 John Boyd、FIDIC 執行委員会メンバー Pablo Bueno Tomas と Flemming Pedersen、そして FIDIC 専務理事である Enrico Vink は、2008 年 5 月 30 日にプラハで開かれたヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合（EFCA）会議出席した。この機会に、最近公表された FIDIC - EFCA の作業部会調査報告書に基づき、ヨーロッパにおけるコンサルタント業界のあり方についてヨーロッパ 25 カ国からのメンバー及び出席者と議論した。そこには、ヨーロッパ連合 / 委員会の活動組織である EFCA と、国際的に最も優れた実務を主導する FIDIC の 2 つの機関の関心事項を統合させることに強い関心がある。それによって、より経済的な活動が可能となるシナジーを高めることができる。

FIDIC は報告書の提案事項の幾つかに従い、ただちに行動を起こした。たとえば、その活動を国際融資機関、開発機関や分野横断的な国際機関の枠を超えて他の産業まで拡大し、統合計画に対する EFCA の様々なオプションを詳細に検討した。ヨーロッパにおける当面の主要な問題は、公正な競争・適切な専門職業賠償責任保険の整備・公正で透明性のある調達方針の適用（コンサルティングエンジニアの債務処理も含む）・EU が融資するプロジェクトでの FIDIC 契約約款の活用を含めた手順などである。

E. ビジネス実務（Business practice）

E.1 革新リスク軽減のための調達ポリシー（Procurement policies to mitigate risks in innovation）

EFCA 主催で 2008 年 5 月 30 日にプラハで開催された「コンサルティング業界における知識管理と革新」に関する 2008 年会議のスピーチで、欧州委員会（the European Commission、EC）の Mette Quinn はサービス産業が EU 経済の 3 分の 2 を占め、過去 20 年間で実質的に雇用を創出した唯一のセクターであることを強調した。サービス産業はまた、輸出入がますます容易となり、グローバル化の波にさらされている。にもかかわらず、革新を支援する EU のほとんどの政策と対策は未だに技術的なものに限定されている。

2007 年 EU 委員会のヨーロッパにおけるサービス業革新に関する覚書は「革新の推進に配慮した公共調達」を行うことによるサービス業の革新を要請した。EC ガイドライン中のライフサイクルコストの解説には、持続性に関わる問題（たとえば、インフラプロジェクトにおける革新的な設計のリスクを誰が取るのか等）と契約に関する問題は表面的にしか取り扱ってこられなかったことを暗示している。同様の状況は国際融資機関の調達にも見受けられる。改善した政策や施策を明確にし、これをテストするように計画された EU プログラムは、より具体的であることが望まれる。このプログラムには、政策検討を行うパートナーの募集と 2008 年暮れに予定している革新ネットワーク（INNO-Net）での国際協力に関する提案を含んでいる。

F. 事業展開（Business development）

F.1 開発銀行はより体系的で持続可能な調達方法を調査（Development banks to explore more systematically sustainable procurement）

2008 年 6 月上旬、ワシントン D.C.において、FIDIC によって始められた歴史的に重要なワークショップが開催された。主要な国際融資機関が、事業計画の基準を設定するための現行の方針や手続について協議し、さらに協調を進めていくことに合意した。国際融資機関は、2003 年の赤道原則採択の際には大きく貢献したが、債務国における持続可能な開発の促進手段の選定においては、主導的な活動を行ってこなかった。環境政策は一般の経済政策とともにすでに幅広く確立されている一方で、社会政策は議論されながらも協調が取れておらず、FIDIC のプロジェクト持続可能性管理（PSM）のように構造化され、かつ包括的な取り組みの確立には至っていない。現在、国際融資機関は、調達における持続可能性に関して、FIDIC の取り組みに深い理解を示している。

国際融資機関より援助を受ける多くの債務国との間で、それら債務国を対象とたより持続可能性を高めたプロジェクトの調達方策の検討を行う専門調査委員会の設置が議論されている。この取り組みは調達方法の改善のみならず、「質」を重視したコンサルタントの選定に繋がるので、FIDIC は積極的な参加の姿勢を示している。

G. 倫理（Ethics）

G.1 全ての当事者は汚職防止策に対して確約が必要（All parties need to commit to anticorruption measures）

ビジネスの公正性確保に対する業界のイニシアチブがほとんど認知されていないために、企業は特にビジネスリスクの高い地域での国際融資機関の資金によるプロジェクトを避ける傾向にある。健全なビジネス風土の回復を支援するために、FIDIC は、自らのビジネス公正管理システム（BIMS）が認知されるための議論を行っており、調達機関用に政府調達公正管理システム（GPIMS）を開発した。BIMS 同様、GPIMS は、上級レベル管理者の責務宣言、訓練、実証可能なシステムを要求している。2008 年 6 月上旬にワシントン D.C.で開催された特別なワークショップにおいて FIDIC は、「すべての当事者が参加しなければ、汚職との戦いが進展することはまずないだろう」と強調した。開発銀行は、GPIMS を分析することで、GPIMS が自分たちのおなじみで厳しい対策と非常に良くつり合いが取れていることが解り、潜在的な資質のある補完ツール、例えば不正行為や汚職の兆しとなる調達の遅延のような「赤旗」を監視する世界銀行の実施詳細評価を補完するツールとして、原則的に興味を持っていると表明した。

[AJCE 事務局より] AJCE では、『コンサルタント業界におけるビジネス公正管理システム(BIMS) ガイドライン』[コード AD-19]、『コンサルタント業界におけるビジネス公正管理システム(BIMS) トレーニングマニュアル』[コード AD-29]を販売しております。(http://www.ajce.or.jp/book/book_fidic-ajce01-1.htm) お問い合わせは AJCE 事務局(TEL:03-3839-8471)まで。

H. イメージ (Image)

H.1 世界法律会議はコンサルティングエンジニアの役割を認知 (World Justice Forum recognizes the consulting engineers' role)

世界法律会議は、法制度の強化を図る取組みを支援するため、多国籍・多分野におけるアプローチを採用している点でユニークである。そのプロジェクトは、いくつかの主要な財団や多国籍企業の支援を得ており、2008 年 7 月 2 日～5 日、様々な分野のリーダー数百人を招待して世界法律会議をオーストリアのウィーンで開催した。FIDIC 会長 John Boyd は、建築とエンジニアリングのセッションの司会進行を行った。コンサルティングエンジニア産業が、法的な権利と社会が直面している主要な法的問題に直接的に関与していることを紹介することで、コンサルティングエンジニアの評価を高めることができた。彼は、「法曹界との関係維持と腐敗防止の観点でのなんらかの協働」に関して考察し、具体的には、エンジニアとして以下を提案した。

- a) 開発の進んだ都市環境において公共の安全が十分に確保されていない自治体条例への追加。
- b) 法制度を支援する開発銀行プロジェクトの評価。

以上